



No.109

2001-3-9

日本教育工学会ニューズレター

Japan Society for Educational Technology

事務局:〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5 森ビル(視聴覚ビル) 2階
電話/FAX:03-5251-2133 e-mail:jet-office@japet.or.jp
日本教育工学会ホームページ http://www.japet.or.jp/jet/

ISSN 1340-9913

200

ラベル紙に示しました金額は、2001年度までの会費請求となります

研究会報告集、教育工学事典の送金も一緒にお願いします(P.12をご参照ください)

年会費は原則として前払いとなっております。同封の郵便振替用紙により、2001年度(2001年4月1日~2002年3月31日)の会費をご送金下さるようお願い致します。年会費の年額は右記のとおりです。

正会員 9,000円
准会員 5,500円 入会金
学生会員 5,500円 1,000円
特殊会員 10,000円
維持会員 50,000円/口

会費請求額は、ラベル紙の右下に示した金額となります。ただし、会員種別が変更になった場合は上記の年会費を参照の上、ご送金下さい。

(注)

論文誌:和文年4回発行
学会誌:ショートレター特集号として年1回発行
英文誌:英文年1回発行
JET:ニューズレター年6回発行

Table with 6 columns: 会員種別, 年会費, 論文誌, 学会誌, 英文誌, JET. Rows include 正会員, 准会員, 学生会員, 特殊会員, 維持会員, 名誉会員.

- 学生会員は正規の入学者で、**研究生は該当しません。**
● 学生会員の所属機関は、**必ず大学名**となります。所属機関が大学以外の場合には、正会員または准会員となります。
● 学生会員は、**資格条件**(大学名、学部名/研究科名、指導教官名、卒業見込/修了見込の年月)を必ず連絡してください。
● 学生会員として資格条件をご連絡いただかないで、年会費5,500円を納入された方は、取りあえず准会員に変更させていただいております。

本号目次

Table with 2 columns: 会費納入のお願い, シンポジウムと第17回総会のお知らせ, 日本教育工学会第17回大会のお知らせ, 研究会の案内(3/24), 研究会の発表募集(5/27), 今後の予定, 冬の合宿研究会報告, 論文投稿に関するQ&A, 第8期第12回理事会議事録, 新入会員/学会日誌等.

日本教育工学会 2001年度 シンポジウムと第17回総会のお知らせ

テーマ：21世紀の教育に寄与できる教育工学研究を目指して

■日時 2001年6月9日(土) 10:00～17:00

■会場 東京工業大学百年記念館3階フェライト会
(東急目蒲線・大井町線大岡山駅)

趣旨：21世紀を迎え、IT革命の渦中にあります。流れの速い時代にあって、教育の内容・方法・制度などは大きな転換点を迎えています。

今回のシンポジウムでは、21世紀初頭の教育の情報化の流れを見据え、E-learningを中核とした新しい教育・学習の手段と、それに伴う教育制度の変化について、教育工学がどのように対応していけばよいかについて検討を進めます。

今年度より、総会と連動して行うことになりました。そのため、午前中は学会会員のみ参加可能なパネルディスカッションとし、午後は社会に広く公開するシンポジウムとして企画します。

■パネルディスカッション(午前10時より)

「21世紀の教育工学の研究方法論と後継者養成を考える」

教育工学は、多くの領域の束であり、領域間の連携や融合によって学際的な色彩を持っています。このことが、教育工学の研究方法論の議論を産み、学会でも何度も討論が試みられてきました。本パネルディスカッションでは、21世紀を迎え、新しい学習・教育システムを見越した教育工学の研究方法論について議論します。そのための着眼点として、例えば後継者養成のための博士課程のカリキュラムや、学会誌の査読の観点、実践との融合などを取り上げ、教育工学をもう一度見直すことを目的とします。

■シンポジウム(午後2時より)

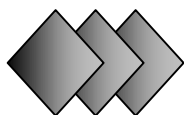
「E-learningによる教育システムの改革」

インターネットや衛星通信等の利用により、遠隔地から教育や研修を受講したり、それによって卒業認定が行われたりするようになりました。新しい教育システムにおいて、教育工学の研究知見がどのように活かされるべきでしょうか。実際にE-learningを研修に取り入れている企業、遠隔教育を実施している大学、バーチャルユニバーシティーやホームスクーリングなどの動向について、すでに実践として取り組み始めた方々をお招きし、実践報告およびディスカッションを行います。

■参加費

資料が必要な方は、資料代として1,000円を徴収します。

注)当日は、パネルディスカッション終了後、すぐ総会が予定されています。



日本教育工学会 第17回全国大会のお知らせ

(第1報 大会の概要・スケジュール)

学会ホームページ <http://www.japet.or.jp/jet/>



日本教育工学会第17回大会を、下記のように鹿児島大学教育学部において開催します。多くの皆様方にご参加いただけますよう、ご案内申し上げます。

1. 開催期日・会場

日時：2001年11月23日(金)～24日(土)

会場：鹿児島大学教育学部

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-20-6



<http://www.kagoshima-u.ac.jp/univ/00gaiyo/picture/p46.GIF>

2. プログラム概要

- ・ 基調講演/シンポジウム(検討中)
- ・ 課題研究発表
- ・ 一般研究発表
- ・ English Session
- ・ 自主シンポジウム
- ・ 懇親会

3. 前回との変更点

1. 課題研究については原稿枚数を、一般研究と同様 A4版2頁とし、申し込み時に2頁の原稿下書を提出していただきます。原稿下書によって発表の可否を審査します。
2. 自主シンポジウムの企画を募集いたします。詳細は次号でお知らせします。
3. 原稿は必ず2頁とし、1頁のものは受け付けません。(課題研究、一般研究、English Sessionとも)
4. 本年は大会期間中に総会は開催いたしません。

4. 大会までのスケジュール

7月27日(金) 発表申し込み締切 (課題研究はA4版2頁の原稿下書を、一般研究はタイトルのみ)

8月20日(月) 課題研究採否決定通知

8月31日(金) 発表原稿締切 (課題研究、一般研究とも)

10月30日(火) 参加費送金期限

5. 参加費等

大会参加費 事前 3,500円 2,000円(学生) 10月30日(火)まで

当日 4,000円 2,500円(学生)

論文集代 4,000円

論文集送料 500円(参加しない場合)

論文掲載料 2,000円(別刷100部を含む)

懇親会費 未定(6,000円前後)

6. 大会への参加申し込みについて

参加申し込みは、次号ニューズレターに同封される郵便振替用紙に、参加者氏名、所属、連絡先、支払内訳をご記入の上、10月30日(火)までに参加費をお振込みいただくことで、受け付けさせていただきます。10月30日(火)以降は、振込をなさらないで下さい。当日会場にて、当日参加を受け付けます。

7. 大会での発表申し込みについて

発表申込書は、次号ニューズレターに掲載いたします。E-mail または郵送にて受付します。
本学会における発表申し込みのガイドラインは、次のようになっています。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサー、あるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。

(1) 発表の種類

課題研究発表： 決められたテーマの主旨に合う発表を募集します。応募された発表は担当コーディネータが審査して、発表の可否を決定します。今年はA4版2頁の原稿下書を添えて応募していただくことになりました。なお、テーマによっては一般公募がないこともあります。

一般研究発表： 幅広いテーマでの発表を募集します。申し込みいただいた後、最終原稿の提出をもって申し込みが完了します。

English Session: 発表と原稿が英語であることの他は課題発表に準じます。

自主シンポジウム： 会員の自主的な運営によるシンポジウムです。大会企画委員会が本学会にふさわしいテーマであり運営的にも可能であると認めた場合に開催が許可されます。なお、テーマと主旨はプログラムに掲載されますが、予稿は予稿集には掲載されません。

(2) 発表者の資格

- ・[発表者]は、論文掲載料2,000円を支払うことに同意した本学会の会員に限ります。
ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。
- ・この会員には、発表申し込み時に入会される方も含みます。ただし、発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。
- ・大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。

(3) 発表申し込み件数の制限

- ・会員は、[一般研究・課題研究・English Session]に、それぞれ1件(1人合計最大3件)を発表者として申し込むことができます。自主シンポジウムにはその制限は適用されません。
- ・連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・類似な内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込みはできません。
- ・[課題研究]は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込むことができますが、既に[一般研究]にも申し込みをしている場合には、それを取り上げる必要があります。

(4) 課題研究の審査

- ・課題研究に申し込まれた発表は、担当コーディネータが発表の可否について審査します。
- ・発表の可否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・課題研究発表の採否は、申込者に連絡します。

(5) 発表申し込み先

E-mail: 課題研究発表・English Session jet-kadai@mr.hum.titech.ac.jp

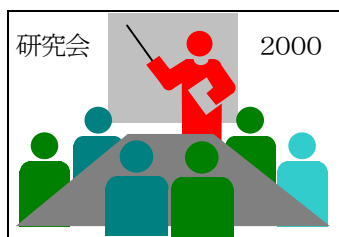
(原稿下書はPDFあるいはWordの添付ファイルとしてください)

一般研究発表 jet-ippan@mr.hum.titech.ac.jp

郵送: 〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学 大学院社会理工学研究科 室田研究室気付 大会企画委員会 宛

大会企画委員会 委員長：伊藤 紘二（東京理科大） 副委員長：吉田 貞介（金沢学院大）
委員：赤倉 貴子（芦屋大） 浅田 匡（神戸大） 生田 孝至（新潟大）
大谷 尚（名古屋大） 加藤 浩（NIME） 黒上 晴夫（金沢大）
黒田 卓（富山大） 五藤 博義（不思議ネット） 近藤 勲（岡山大）
坂谷内 勝（国立教育政策研） 正司 和彦（兵庫教育大） 園屋 高志（鹿児島大）
平嶋 宗（九州工業大） 美馬 のゆり（はこだて未来大） 室田 真男（東京工業大）



研究会の開催

総合的な学習の時間と情報活用の実践力

日 時：2001年3月24日(土)

場 所：京都市大学のまち交流センター「キャンパスプラザ京都」
(京都駅より徒歩5分ほど)

担 当：宮田 仁(滋賀大学教育学部)

研究会への参加は、当日受付にて同研究会の報告集(1000円)をご購入いただければ、一般の方でも可能です。研究発表申し込み多数につき、午後からの発表について2会場となりました。また、当日、プログラムに変更がある場合があります。あらかじめご了解ください。

プログラム

9:30 受付開始

9:50 開会の挨拶

10:00~12:00 研究発表1(会場A)-----

(A-1)Webブラウザを使用する地域学習教材の作成と活用

中川 博登(上越教育大学), 鶴本 修一・小林 明(上越市立春日小学校), 中野 靖夫(上越教育大学)

(A-2)栽培学習を支援する教材の作成と活用

戸田 雅裕(上越教育大学), 山本 修(上越市立春日小学校), 中野 靖夫(上越教育大学)

(A-3)総合的な学習の学びを開く「基礎技能講座」の分析と考察

中橋 雄(関西大学大学院総合情報学研究科), 今田 晃一(大阪教育大学教育学部附属池田中学校)

(A-4)BBS及びテレビ会議システムを使ったフィンランドとの国際交流

納谷 淑恵(兵庫県立尼崎南高等学校)

(A-5)「総合的な学習の時間」の指導を支援するWeb情報検索システムの開発

松田 稔樹・菅 直樹(東京工業大学)

(A-6)中学校の総合的な学習の時間における情報教育のあり方

東京学芸大学の4附属中学校における実践報告

伊藤一郎(東京学芸大学), 西原口伸一(東京学芸大学附属竹早中学校), 鈴木雄治・矢嶋昭雄(東京学芸大学附属世田谷中学校), 葉山盛雄(東京学芸大学附属小金井中学校), 赤羽寿夫(東京学芸大学附属大泉中学校)

12:00~13:15 昼食-----

13:15~15:35 研究発表2(会場A)-----

(A-7)情報教育の普及に向けた授業モデルの開発研究

- ベテラン教師の情報教育への挑戦を題材として -

木原 俊行(大阪市立大学), 堀田 龍也(静岡大学), 小柳 和喜雄(奈良教育大学), 山内 祐平(茨城大学), 三宅 貴久子(岡山市立平福小学校)

(A-8)小学校「総合的な学習の時間」におけるコンピュータスキルアッププランの開発と評価

瀬川 良明(北海道教育大学附属教育実践総合センター), 三木 直輝(北海道教育大学附属札幌小学校), 出葉 充(北海道教育大附属札幌小学校)

(A-9)ネットワークを活用した授業スキル研修ゲームの開発

野村 泰朗(埼玉大学), 石井 奈津子・松田 稔樹(東京工業大学大学院社会理工学研究科), 波多野 和彦(メディア教育開発センター)

(A-10)対戦型ネットワークゲームの開発とプレイ環境による特徴

下岡 誠・横山 節男(東京学芸大学), 赤堀 侃司(東京工業大学)

(A-11)授業設計訓練システムにおける教材分析機能の改善

加舎 栄彦・松田 稔樹(東京工業大学)

(A-12)授業設計訓練システムにおける時間配分に着目した評価・助言機能

山本 直哉・松田 稔樹(東京工業大学)

(A-13)総合的な学習の時間における情報モラル学習の展開と評価

宮田 仁(滋賀大学教育学部), 石原 一彦(大津市立瀬田小学校)

15:45 閉会

13:15～14:55 研究発表3(会場B)-----

(B-1)情報活用の実践力の育成のための目標・活動・評価管理システムの開発

奥村 英樹(四国大学生生活科学部)

(B-2)普通教科「情報」の内容に関する教員の意識調査

- 富山県・新教科「情報」現職教員等講習会受講者を対象として -

棚田 英治(富山大学大学院), 黒田 卓・山西 潤一(富山大学)

(B-3)NHKしりごみしていたインターネット講座の番組評価

伊藤 充児(上越教育大学大学院), 小川 亮(上越教育大学), 永野 和男(聖心女子大学)

(B-4)幼児教育(保育)現場へのパソコン導入と課題(3)

- 福井県内の幼稚園・保育園を対象とした実態調査から -

宮川 祐一(仁愛女子短期大学)

(B-5)生徒の表現力を広げる学校設定科目「マルチメディアデザイン」

チームティーチングによる横断的・総合的な授業

松本 吉生・山本 茂之・菊川 敏・細川 好弘(兵庫県立明石高等学校)

会場へのアクセス

JR京都駅中央口(京都タワー側:新幹線ホームの反対側)より線路に沿って西方向へ徒歩5分。

京都中央郵便局の西側(裏)です。

アクセス方法 <http://www.consortium.or.jp/center/map/index.html>

発表者の方へ

使用可能器材:OHC(TPシートも対応可)、液晶プロジェクター(解像度1024×768まで、コネクタはDos/V型)、ビデオデッキ(VHS。3倍速は不可)。なお、PC本体は持参してください。

発表1件につき、20分の持ち時間です。15分を発表に、5分を質疑の時間といたします。



研究会の発表募集

情報教育と総合的な学習の時間

～これからの教師に求められる資質・能力とは～

日時:2001年5月27日(日)

会場:山口大学教育学部 教育実践総合センター(山口大学吉田キャンパス)

開催担当:林 徳治(山口大学)

アクセス:山口大学山口(吉田)キャンパスへのアクセス方法

電車の場合 小郡駅--JR山口線(18分)--湯田温泉駅--徒歩約20分(1.7km)--山口大学

バスの場合 小郡駅--防長バス(20分)--下湯田 --防長バス(5分)----- 山口大学前

--JRバス(5分)----- 山口大学

--徒歩約30分(2.0km)-- 山口大学

防府駅--JRバス(50分)--山口大学

詳細は、山口大学教育学部のホームページをご覧ください。

<http://www.edu.yamaguchi-u.ac.jp/New/INFOR/MAP/map.html>

応募:発表申込書を郵送またはファクシミリで、もしくは同じ内容を電子メールで、研究会事務局宛てにお送り下さい。

応募締切:2001年3月26日(月)到着分まで。

締切後、応募者宛てに3月末に発表の採択結果をファクシミリもしくは電子メールにて連絡いたします。また、採択者には執筆要項が送付されます。

原稿提出:2001年4月27日(金)必着。

原稿提出のない場合、発表取消しとします。

発表予定件数は、12件。本研究会テーマの研究発表を募集しますが、教育工学領域一般の発表も受け付けております。

企画:シンポジウムの開催を企画中です。

発表申込書を郵送またはファクシミリで、もしくは同じ内容を電子メールで、研究会事務局宛てにお送りください。

日本教育工学研究会 発表申込書 (拡大コピーして使用してください)	申込日__年__月__日
・発表希望研究会：開催月__月 テーマ_____	
・発表題目：_____	
・氏名と所属 (記入例： XX(大学)、 (xxx 大学)) (発表者に)：	

・発表要旨：_____	

・発表内容の領域 (プログラム作成時に利用します)：テーマ・一般 (いずれかに をつけてください)	
・使用希望機器：_____	
・執筆要項送付先：(勤務先・自宅 いずれかに をつけてください)	
〒_____ 宛	
e-Mail アドレス _____	

研究会の今後の予定



来年度も、研究会を隔月のペースで実施します。教育工学研究と教育現場において重要な課題をテーマに設定し、研究会を企画しております。会場では、発表者との質疑はもちろんですが、同じ関心をもった研究者・教育関係者が集まっておりますので、さまざまな方と意見交換されるなど活用していただいております。会員の皆様には、教育工学領域の研究の最新情報を入手されるだけでなく、ぜひ、発表して意見を求める場として利用いただけます。テーマに即した研究発表だけでなく、教育工学領域一般の発表もおこなわれます。

2001年度 開催計画	5月27日(日)	『情報教育と総合的な学習の時間』	山口大学教育学部
	7月21日(土)	『新しい学習環境の展開』	大阪大学人間科学部
	9月上旬	教員養成と教師教育関連	東京学芸大学
	11月下旬	ITと国際協力関連	沖縄
	1月下旬	『教育工学における新しい研究方法論』	名古屋大学
	3月下旬	授業研究と教育評価関連	宮城教育大学

研究報告集年間購読の勧め

研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。また、個人・機関のどちらでもご予約できます。予約価格：年6冊、各研究会平均15件の研究発表で、年間合計約500ページほどになります。価格は送料込みで¥3,500です(当日売りは割高になります)。学会本部(研究会事務局ではありません)までお問い合わせください。

研究会事務局

・研究会プログラムのニューズレターへの掲載が、開催直前となっており、会員の皆様にはご不自由をお掛けしております。最新の研究報告を掲載するためそのようなになっております。ご理解いただきたく存じ上げます。Webホームページには、ニューズレターよりも早く掲載しておりますので、ご利用ください。

・日本教育工学会研究会事務局
三尾忠男

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-12
メディア教育開発センター 研究開発部内
Telephone 043-276-3253
Facsimile 043-298-3476
e-mail: jet-branch@nime.ac.jp

研究会の最新情報は、<http://www.nime.ac.jp/EduTech/>をご覧ください。

日本教育工学会「冬の合宿研修会」実施報告

小川亮（上越教育大学）

教育を改善する手段の開発とその実践的な評価は教育工学にとって根本的な問題です。今年の冬の学校は「教育実践研究を支える「共同」を考える」をテーマに、平成13年1月27日から28日にかけて、新潟県上越市で行われました。1日目は上越教育大学学校教育研究センターにて、2日目は市内の国民年金健康センター上越を会場に、地域と教育現場を結ぶ協力のあり方を論じあいました。各地で雪のために列車が運休してしまう荒天にもかかわらず、40名以上に参加いただきました。

1日目（1月27日） 上越教育大学学校教育研究センター

セッション1 <実践研究を支える企業、大学と学校の共同>

パネリスト 篠原 正典（NTT 東日本） 堀田 龍也（静岡大学）

〔敬称略〕 内山 渉（新潟大学） 清水 雅之（上越市立東本町小学校）

司 会 南部 昌敏



篠原正典氏から「こねっとプロジェクト」を通じて、企業側から学校におけるインターネットの活用を支援してきた経験を踏まえて、企業と学校の協力のあり方について提案をいただきました。これを受けて、堀田龍也氏から大学と学校現場との協力の可能性と問題点を述べていただきました。大学の研究の論理と学校側の実践の論理は必ずしもかみ合わないものであり、一定の条件をクリアすることが重要との意見が示されました。内山渉氏からは地域の教育ネットワーク研究会を支援する立場から、学校を支援するのではなく教育に役立つ情報を発信する活動が重要であるとの知見をいただきました。清水雅之氏からは、社会と接点を持った教育実践を展開するためには、学校近隣の施設や人々との協力が不可欠であり、さらに資金的な問題が発生した場合に、より柔軟に企業からの協力が得られるための方策を求める発言がなされました。質疑応答では、実践研究において学

校と企業、学校と大学が如何に連絡出来るのかを論じあいました。時間が限られていることもあり、これが解決策だという合意を得るには至りませんでした。活発な議論が交わされました。

特別解説「情報教育の評価について」

永野和男氏（聖心女子大学）から、企画委員会を代表しての挨拶と共に、情報教育の発達段階に即した評価項目について解説が行われました。参加者は、最新の情報に熱心に耳を傾けていました。

懇親会

会場を国民年金健康センター上越に移して懇親会がおこなわれました。20名ほどが同じ場所に集い、教育研究のあり方について夜更けまで語り合いました。

2日目（1月27日） 国民年金健康センター上越

セッション2 <地域と連携してすすめる実践研究のあり方>

パネリスト 宮崎 俊英（松代中学校）、川村 知行（上越教育大学）

〔敬称略〕 渡辺 正親（新潟県生涯教育推進センター）

戸田 正明（大潟町立大潟町小学校）

司会 小川 亮

まず宮崎俊英氏から、松代町を含む「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2000」の活動を中心に、学校において総合的な創造活動を展開した実践と問題点について紹介していただきました。川村知行氏からは、上越教育大学における総合学習の実践的な研究の中で、大学が地域と連携して教育研究活動を展開することが、子どもたちの問題解決の力を育てる教育の研究にとって不可欠であることが強調されました。渡辺正親氏からは、社会教育の必要性、学社融合、社会教育に求められている内容について、統計資料をもとに解説が行われ、その需要を満たすためには、教育行政と地域、大学など高等教育機関、企業が連携して取り組む必要があることを論じられました。戸田正明氏からは、地域の人材を活かす道徳教育の実践研究の経験を述べていただき、その経験の中で重要なキーワードとして教師の「臨機応変な対応」の重要性が指摘されました。

引き続き自由な討論に移り、臨機応変な対応の力を持った教師はどのように育成できるかという論点について議論が展開されました。ゲストを呼んでの授業は、ライブであるから効果があるのか？という質問に対して、実践者達からは「ライブ」であることの重要性が強調されました。今後、教育大学と地域と学校の垣根がますます低くなり、総合的な学習の時間にゲストによる授業や地域の人材を利用した取材活動など、自分の教育目標にあわせてその場面を最大限に利用する「アドリブ」能力が、教師に一層求められることになると感じました。



論文投稿に関する Q&A (その2)

編集委員会

Q1. 「英文誌への投稿論文には、どんな種類がありますか。」

A1. 「英文誌は、Educational Technology Research という英文名で、通常年1回刊行されますが、その論文の種類も和文誌とほぼ同様な種類があります。論文 (paper)、資料 (Technical Information) の他に、英訳論文 (Translation) があります。英訳論文とは、和文誌に既に掲載された論文を英訳した英語の論文で、内容が和文誌の論文と同じであること、理解できる英文であることが条件です。英訳は著者が行いますが、できればネイティブチェックを受けて、英文のミスの無いようにしてください。論文の種類は、英文誌のそれぞれの論文に、上記の種類が明記されます。」

Q2 「英語論文の査読は、どのようになっていますか。」

A2 「和文誌の論文と同様に、A 採録、B 軽微な修正を要する条件付採録、C 照会後再判定を要する条件付採録、CA 論文としては条件付き採録・資料としては採録、CB 論文としては条件付き採録・資料としては軽微な修正、D 返戻、EA 論文としては返戻・資料としては採録、EB 論文としては返戻・資料としては軽微な修正の場合、の5種類で、査読されます。A 採録は、そのまま論文誌に掲載されますが、B,C,E は、修正の原稿を要求されます。D は掲載を拒否いたします。いずれも修正理由や返戻理由を添付して、投稿者に返します。ただし、E の判定はこれまでにあまりありませんでした。査読期間も、和文誌と同様に、採否の最終決定までに6ヶ月程度は必要と考えられます。」

Q3 「英語論文の投稿は、実情ではどうなっていますか。」

A3 「年1回の刊行ですから、実際のところ投稿数はあまり多くはありません。しかし、国際会議などで発表した英語論文などは、投稿することが出来ます。国際会議では査読があるのが通常ですから、その論文内容は価値も高いと判断されます。さらに proceedings は、国内学会の発表論文集に相当するものですから、英文誌に投稿することは原則として可能です。しかし国際会議の学会で、proceedings の中から優れた論文を選んで論文誌として刊行する場合があります。ここで採択された論文は、当然ながら本学会の英文誌に投稿することは出来ません。なお編集委員会では、応募論文を増やして、年2回の発行を検討しております。」

編集委員会では、和文誌、英文誌の投稿を常時受け付けております。

英文誌の投稿も、是非宜しく願います。

皆様の多くの論文の投稿を、期待しています。

第 8 期第 1 2 回理事会議事録

1. 日 時：平成 1 2 年 1 2 月 9 日（土） 1 2 時 3 0 分～ 1 4 時
1. 会 場：日本教育工学振興会会議室
1. 出席者：水越敏行会長、清水康敬副会長、赤堀侃司、坂元 昂、菅井勝雄、竹谷 誠、永岡慶三、南部昌敏、村川雅弘、山西潤一、吉崎静夫の各理事、小林事務局次長

1. 第 8 期第 1 1 回理事会議事録の承認
異議なくこれを承認した。
2. 会員の異動について
大岩幸太郎君はじめ、新入会員計 2 2 名（正会員 1 4 名、准会員 2 名、学生会員 6 名）、学生会員柴武将君はじめ、計 5 名の退会、種別変更正会員徐暁東君を承認した。
3. 各種委員会の報告について
 - (1) 企画委員会
山西理事より、産学共同セミナーの内容が報告された。また、冬の合宿研究会開催の予告があった。
 - (2) 編集委員会
赤堀理事から、論文誌編集状況と刊行予定について説明があった。また、論文投稿の増加策として、学会ホームページを利用する方向で検討した。
 - (3) 研究会委員会
菅井理事より、これまで開催された研究会と今後の研究会開催予定についての報告があった。清水副会長より、研究会事務局の現状と課題について意見が出された。
 - (4) 顕彰委員会
村川理事より、研究奨励賞候補者の推薦について、再度の依頼があった。
 - (5) ニュースレター委員会
竹谷理事より、ニュースレター発行・編集状況の報告があった。また、現在、文化庁で審議されている著作権についての解説を掲載したらどうか、との意見もあった。
 - (6) 大会企画委員会
伊藤理事より、第 1 7 回大会に向けて、大会企画委員候補案が提案され、委員構成について検討していくこととした。
 - (7) 出版委員会
池田理事より、出版に関する現状についての報告があった。
 - (8) 選挙管理委員会
永岡理事より、総会の時期が例年より早くなるので、選挙手続きなどの日程を早めに検討したいとの報告があった。
 - (9) 渉外担当
坂元理事より、科学教育研連会議についての報告があった。
4. その他
 - (1) 日学選書について
 - (2) 理事会日程について
第 8 期 1 3 回理事会：平成 1 3 年 2 月 1 0 日（土） 1 4 : 3 0 から
第 8 期 1 4 回理事会：平成 1 3 年 4 月 7 日（土） 1 4 : 3 0 から
会 場：（社）日本教育工学振興会（虎ノ門）

以 上

2001

3,500

本学会では、研究会を年6回開催しており、研究会報告集を作成しております。この研究会報告集は、事前に代金3,500円を送金された会員に配布しています。

研究会当日会場で受領できますし、不参加

の場合は研究会終了後、郵送されます。是非事前に3,500円をご送金下さい。年度の途中で3,500円をご送金いただいた場合は、次に開催された研究会終了後に、それ以前の報告集をまとめて郵送します。

教育工学事典の購入について

教育工学事典の会員に対する割引は以下のようにしております。

定 価 12,600円(税込み・送料別)

会員割引 10,000円(税込み・送料込み)

ただし、学会事務局へ会員から10,000円を送金された場合に限りです。

会員1人あたりの部数に制限がありませんが、送付先は会員の住所あてにまとめてお送りします。

請求書による後払いの場合は、近くの書店あるいは出版社に注文して下さい。

新入会員

(2000年12月10日～2月10日)

■ 正 会 員 13名

青木 惣一(アメリカ・カナダ大学連合
日本研究センター)
五十嵐 智朗(新潟県立巻農業高等学校)
板垣 隆久(有限会社 カンタム コア)
氏間 和仁(愛媛県立松山盲学校)
太田 容次(滋賀大学教育学部附属
養護学校)
大原 利江(茨城大学教育学部附属
教育実践総合センター)
小山 裕(郡山女子大学)
兼重 昇(兵庫教育大学言語系)

高橋 伸明(岡山県笠岡市立金浦
小学校)
田中 信之(北陸大学)
筒井 将隆(香川県立善通寺養護学校)
中島 淳(東京情報大学)
原田 紀久子(京都市サーチパーク
株式会社)

■ 准 会 員 4名

江田 聡美(都立白鷺養護学校
中学部教員)
田中 敦夫(神戸市立月が丘小学校)

寺 朱美(北陸大学留学生別科)
渡辺 正典(株式会社マックス)

■ 学 生 会 員 6名

石川 佐世(甲南女子大学)
大久保 成(上智大学)
掛川 淳一(東京理科大学)
熊谷 英樹(東京大学)
崎浜 秀行(名古屋大学)
田畑 慶人(奈良先端科学技術
大学院大学)

学会日誌

- 3月24日(土) 研究会「総合的な学習の時間と情報活用の実践力」
(京都市：大学のまち交流センター：キャンパスプラザ京都)
- 5月27日(日) 研究会「情報教育と総合的な学習の時間」
(山口大学教育学部)
- 6月9日(土) 第17回通常総会・シンポジウム
(東京工業大学100年記念館)
- 7月21日(土) 研究会「新しい学習環境の展開」
(大阪大学人間科学部)
- 7月27日(金) 全国大会発表申し込み締切
- 8月31日(金) 全国大会発表原稿締切
- 11月23日(金)～24日(土) 第17回全国大会
(鹿児島大学教育学部)

ニューズレター制作 編集長：清水 康敬，編集委員長：竹谷 誠，委員：野嶋 栄一郎，松居 辰則，佐々木 整
拓殖大学工学部情報工学科 FAX: 0426 - 65 - 1519 E-mail: jet-news@cs.takushoku-u.ac.jp

日本教育工学会 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-17-1 虎ノ門 5 森ビル(視聴覚ビル)2階

社団法人 日本教育工学振興会内

電話 / FAX: 03-5251-2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp 郵便振替 00180-0-111042